



佐世保市立清水中学校
学校だより25号
令和6年 3月13日
校長 椰尾 吉嗣

学校教育目標：「明るく、自ら求めて伸びる生徒の育成」
校訓：凛と在れ 生徒会スローガン：「果敢 挑戦 前進」

🌸 ご卒業 おめでとうございます 🌸

いよいよ明日は第77回卒業証書授与式です。3年生の皆さんには、昨日の練習の際にもお話をしましたが、卒業式は3年間の中の最後の授業でもありますし、学校における行事の中でも非常に大切な位置づけとしてとらえています。また私たち教職員、在校生ができる最後のはなむけでもあります。

担任の先生方も一人一人に対するこれまでの思い、関わりを振り返りながら呼名をします。ぜひ3年生もその思いに、立ち振る舞いや声の大きさに応え、成長した姿を見せてください。それこそが何よりも恩返しですし、後輩たちにとっても大きな憧れ、目標になるのです。

在校生の皆さんは、先輩たちのその姿をしっかりと目に焼き付けておいてください。そして来年の、再来年の自身の姿をそこに映し重ねてください。皆さんが先輩たちにできる最後のはなむけは、先週から一生懸命に取り組んでいる式歌の歌声ですし、入退場の時の心のこもった拍手なのです。先輩たちから『伝統』というバトンをしっかり受け継ぎ、「後は頼んだぞ!」と安心して巣立っていけるよう明日もよろしくお願いします。

あの日から13年… (いのちの日)

2011.3.11 14:46 東日本大震災発生から13年がたちました。一昨日、13年後の同じ時刻にそれぞれの思いを込めて黙とうを捧げました。13年前のあの日、九州に暮らす者にとっては、直接揺れを感じたり被害がなかったのにニュースで見る情報からしか出来事を把握することはできませんでした。時間を追って入ってくる被災地の様子には、言葉を発することのできない驚きや悔しさ、悲しみを抱いたことを思い出します。

あの震災から、多くのことを学び教訓としてきました。安全面や緊急時の対応などは言うまでもなく、何より人と人のつながり、支え合い、『絆』というものをこれまで以上に考える契機となりました。

「もう2度とあんなことはないだろう」と思いながら、その後も各地で起こる台風や大雨の被害、身近な熊本での地震、新型コロナウイルス感染症など、“経験したことのないもの”“想定外”のことが起こることを私たちは身をもって経験しています。これから先もどんなことが起こるかわかりません、と思っていた矢先の今年元日の能登半島地震。私たちは、その時々で、たくましく生き抜く力が求められます。

さまざまなメディアが、この13年を振り返り、被災地の今、人々の様子を報道するでしょう。いつも以上に目や耳を傾けて、彼の地に思いを馳せる時間を持ちたいものです。と同時に、決して他人事としてとらえず、「自分ならば」と考えるきっかけにしていけたらと思います。

嬉しいおたよりいただきました

『能登半島地震』に関して、遠い場所での出来事と無関心になるのだけは避け、少しでも被災地の復興にお役に立てればという思いから、本校では生徒たち自身の呼びかけで募金活動を行いました。その様子はニュースでも流れたのですが、今回そのニュースを見た千葉県在住の方から「生徒の行動に学ばされ、自分に何ができるかを考え、可能なことから始めていこうと思う」という心温まるエールをいただきました。私たちの取組が、被災地の方はもちろんそのニュースを見た方にも影響を与えたりお役に立つことができた、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

鮮明な画像等は、ホームページでご覧ください。